

発行・編集

特定非営利活動法人レキオウイングス

住所：〒901-2121 沖縄県浦添市内間 2-21-30-405

電話：098-943-8919

2022年3月

SDGs達成に向けた次世代おきなわ国際人材育成プロジェクト



## SDGs達成に向けた次世代おきなわ 国際人材育成プロジェクト

Okinawa International Youth Development Project for SDGs



Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

## 目次

はじめに	02
1. 事業概要	03
(1) 事業名	
(2) 事業期間	
(3) 参加者	
2. 事業内容	04
(1) 背景/目的	
(2) 事業内容	
(3) 事業目的	
3. 事業成果報告及び次回へ向けた取り組み	06
4. 活動内容	07
【成果1】 沖縄の国際交流・国際協力に関する知識・ノウハウの習得	07
【成果2】 NGO等でのインターンシップ等の体験	14
【成果3】 企画書作成および成果報告会の実施	21
5. プログラムの評価・参加者のアンケート結果	34
6. 成果物	40

## はじめに

「沖縄における次世代の国際人材育成事業」は、日本財団の助成を得て、2021年4月の募集開始からスタートし、2021年5月から2022年3月までの間、将来の担い手となる若者の人材育成に取り組んできました。

国際協力分野の人材を育成するために、①国際協力に関する知識の習得、②NGO等が活躍する事業への参加、③企画書を作成し成果を発表するという3つのステップで事業を進めていきました。

沖縄県内では、特に国際協力の観点でSDGsの実現に取り組むための企業とNGOによるプラットフォームが形成されつつありました。そのプラットフォームで行う活動にプログラム参加者が参加することで、国際協力分野に関する知識・ノウハウを習得していきました。また、食品・商品開発、平和、外国人材、環境の4つの分野で、職業としてSDGsに取り組んでいる9つの企業やNGO等でのインターンを体験することができました。

その結果、次世代おきなわの国際交流・国際協力の架け橋となる担い手として、プログラム参加者の将来の展望および個人の成長における変化が認められ、地域が抱える課題の解決策である4つのプロジェクトを企画立案し、成果として発表することができました。

今後も国際協力活動を継続したいという意欲のあるプログラム参加者も出ており、当法人としても、世界に羽ばたく若者への支援と人材育成を継続していきたいと考えています。

本事業の実施においては、後援の JICA沖縄をはじめ、県内 NGOと企業等に全面的な支援をいただきながら進めることができました。本事業を通じて、SDGsへの貢献に向けた新たなネットワークも形成することができたといえます。

このような貴重な機会を経験できたことも日本財団の助成の賜物であり、あらためて感謝申し上げます。



2022年3月  
NPO法人レキオウィングス  
理事長 安和 朝忠

## 1. 事業概要

## 2. 事業内容



(1) 事業名	沖縄における次世代の国際人材育成事業
(2) 事業期間	2021年4月1日～2022年3月31日
(3) 参加者	沖縄県内の大学生(琉球大学、沖縄国際大学、沖縄大学、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学)を中心とした若者

### (1) 背景/目的

沖縄はアジアに近いという地理的優位性があります。この地理的優位性を鑑み、沖縄の自立発展は、アジア諸国との交流と連携を深めながらともに発展していくという関係で実現されるものです。したがって、観光・環境など様々な分野における国際協力を強化していく必要があります。

一方、沖縄県内の国際協力を担う NGO等は、コロナ禍により、やむなく事業の中断もしくは縮小を強いられています。事業形態を变形することもすぐには難しく、今後もウィズコロナ時代を念頭に置きながら、何らかの策を講じていく必要性が生じています。

さらに、若者のうち、特に、大学生はコロナ禍において、経済的事情や学習環境の不十分さなどにより、休学や退学にいたる学生が少なからずいることが明らかになっています。そのような若者から、学びや社会経験を積む機会をなくすべきでないと考えます。

そこで、沖縄県内の大学生を中心に、国際交流・国際協力の担い手となるよう育成する本事業を実施します。

本事業を通じて次世代沖縄の中核となる国際性に富む人材を育成し、沖縄県の国際化並びに沖縄21世紀ビジョンとSDGs<sup>1</sup>の目標達成に寄与することを本事業の目的とします。

1: SDGsとは誰一人取り残さないことを掲げた2030年までの持続可能な開発のための17の目標

**(2) 事業内容**

沖縄県内の大学生を中心とした若者に対し、国際交流・国際協力に係る担い手となるよう育成する事業を行う。本事業を通じて次世代沖縄の中核となる国際性に富む人材を育成する。

**プロジェクト目標**

- 1 次世代のおきなわ国際交流・国際協力の架け橋となる担い手として、プログラム参加者の将来展望及び個人の成長における良い変化が起きる
- 2 若者による地域が抱える課題の解決策であるプロジェクトが4件以上企画立案される
- 3 若者が国際協力を実施するフィールドを4カ所以上得る

**アウトプット**

- 1 沖縄の国際交流・国際協力に関する知識・ノウハウの習得
- 2 NGO等でのインターンシップ等の体験
- 3 企画書作成および成果報告会の実施

**活動**

- 1-1 沖縄県内の国際交流・国際協力の第一線で活躍する講師陣から最前線の知識とノウハウを習得する
- 2-1 若者が、現地視察、研修事業やインターン等、NGOの活動に参画する
- 3-1 課題解決のためのプロジェクトサイクルマネージメント研修及びプロジェクト企画・立案ワークショップ
- 3-2 成果報告会

**(3) 事業目的****上位目標**

(プロジェクト後3年後までの目標)  
SDGs達成へ向けた新たな国際交流・国際協力プロジェクトが若者中心となり動き始める

**指標**

- 国際交流・国際協力に関心のある県内若者が集まり自分たちで主催する研修が実施される
- 若者間ネットワークを活用した、新たな国際交流・国際協力プロジェクトが計画・実践される

**期待される波及効果**

- 社会への波及効果：2030年までのSDGsや沖縄21世紀ビジョン「世界に開かれた交流と共生の島」に貢献できる人材が育成される
- NGOへの波及効果：若者がNGOに関心をもつようになり、担い手・後継者が現れる
- 若者への波及効果：一地方である沖縄県内からでも国際協力を実践できる道が選択できるようになる

**3. 事業成果報告及び次回へ向けた取り組み**

事業の目標として、①次世代のおきなわ国際交流・国際協力の架け橋となる担い手として、プログラム参加者の将来展望及び個人の成長における良い変化が起きる、②若者による地域が抱える課題の解決策であるプロジェクトが4件以上企画立案される、③若者が国際協力を実施するフィールドを4カ所以上得ることを設定しました。

①の目標に関しては、91.7% (とてもそう思う、そう思う)の参加者から将来に良い影響を与えたと評価されました。参加者からは、課題解決のためのプロセスや自分で企画を考えるという作業など、大学での学習ではできない体験であり、将来目標に向かって進むときに、ここで体験したことを活かすことができる。学生として自ら考え行動することができた。行動したという経験は、大人になっても自分を勇気づけると思う。この経験は将来大きな影響を与える。現在が未来とどうつながっているのかを考えることができる機会になったなどと報告されています。

②の目標に関しては、成果報告会において、「食育・商品開発」、「平和」、「外国人材」、「環境」の4つの分野における課題解決のために企画・立案したプロジェクトが発表されました。このプロジェクトは、本事業が専門家であるNGOや企業の協力のもと、ハンズオンで支援し、形成を進めてきた成果といえます。

③の目標に関しては、②に挙げた4つの【分野】としてのフィールドを得たにとどまらず、新しく知ったことも多く、大変勉強になった。自分の考え方や行動を変えることができた。チームとして作業を進めていく際のマネジメントとリーダーシップの意味を体験的に理解することができた。学びを通じて自分たちの地域のことを知るなどアイデンティティが大切なことであるなど、【知識・経験・発見】としてのフィールド、同じ世代同士で一つの問題について解決していく貴重な機会となった。他大学の学生との交流ができたなど、【横のネットワーク】としてのフィールド、様々なNGOや企業など多くの人の考えや発想に触れることができた。ともにSDGsに向けて目標を考えて行くことは得難い機会であったなど、【社会とのネットワーク】としてのフィールドという4つの視点における新たなフィールドを獲得できたといえます。

以上を踏まえ、本事業で企図した目標は達成できたものと評価しています。

一方、コロナ禍で日程の延期や変更などが多くありました。ウィズコロナ社会における事業運営においては、計画通りに進めることが非常に難しいことがわかりました。また、事業期間が長く、参加者は本業の学業がある中で、モチベーションを維持することは大変だったかと思います。さらに、学生にとどまらず、社会人等の若者にもSDGsへの参加や学習の機会、ネットワークを形成する機会が少ないことの声も参加者からありました。

これらのことから、次回の事業の実施にあたっては、期間を短く、集中的に行うこと、対象をおおむね35歳以下のU-35を対象とすることなどを検討していきたいと考えています。

## 4. 活動内容

### 成果1 沖縄の国際交流・国際協力に関する知識・ノウハウの習得

**活動 1-1** 沖縄県内の国際交流・国際協力の第一線で活躍する講師陣から最前線の知識とノウハウを習得する

#### 全体ブリーフィング

2021年5月18日 (火)

14:00～17:15  
@JICA沖縄

報告内容: キックオフミーティング

本事業に参加する沖縄県内の大学生(琉球大学、沖縄国際大学、沖縄大学、名城大学、沖縄キリスト教学院大学)を中心とした若者を募集し36名の応募があった。本事業の参加者を以後、「おきなわ SDGs ユース」という。

2021年5月18日、JICA沖縄体育館にて、おきなわ SDGsユースのキユースのキックオフミーティングを開催。「チームビルディング」、「国際協力に関する基調講演」、「本事業の説明」、「グループディスカッション」を実施した。

①食育・食品、②平和、③外国人材、④環境の4つのチームに分かれ、それぞれ今後取り組みたいことをまとめた。



アイスブレイクの様子



JICA沖縄服部氏基調講演の様子



グループディスカッションの様子



質疑応答の様子



#### 分科会への参加

食育・食品

2021年6月15日 (火)

14:30～17:30  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

NGOと企業のパートナーシップ形成を目的としたおきなわ SDGs国際協力ネットワーク形成プログラムの食育・食品分科会に「おきなわ SDGsユース」が参加。食育では、開発するゲームの案を検討した。食品では、「ソロモン産カカオ入りカレー」のレトルトパウチの試作について協議した。



分科会の様子



2021年7月13日 (火)

14:30～17:30  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

「ソロモン産カカオカレー」のレトルトパウチの商品開発に関する意見交換を行った。また、カレー完成までのスケジュールや作業手順についても確認した。



分科会の様子



 **平和**

**2021年6月4日(金)**

10:00~11:30  
@JICA沖縄

**報告内容: 分科会**

NGOと企業のパートナーシップ形成を目的としたおきなわ SDGs国際協力ネットワーク形成プログラムの平和分科会に「おきなわ SDGsユース」が加入。事前学習としてのインターン、オンライン研修について協議した。



分科会の様子

**2021年6月11日(金)**

10:00~11:30  
@Zoom(オンライン開催)

**報告内容: 分科会**

「おきなわ SDGsユース」による国際協力と人材育成の要素を組み込んだ平和研修ツアーの企画に向け、事前学習研修の役割分担を確認した。



分科会の様子

**2021年7月17日(土)**

10:00~17:00  
@JICA沖縄

**報告内容: キックオフミーティング**

平和研修ツアーの企画に向け、パラオの概要や歴史(太平洋戦争時を含む)、パラオにおける JICA事業について理解を深めることを目的に事前研修プログラムを実施した。



事前研修プログラムの様子

**2021年8月10日(火)**

9:30~12:30  
@Zoom(オンライン開催)

**報告内容: 分科会**

平和研修ツアーの企画・立案に向け、沖縄平和協力センターの講義では NPOの活動等について学び、前回の分科会で考えた資料を基にパラオ事務所とオンラインで質疑応答を行った。



分科会の様子

 **外国人材**

**2021年5月21日(金)**

14:00~16:00  
@JICA沖縄

**報告内容: 分科会**

NGOと企業のパートナーシップ形成を目的としたおきなわ SDGs国際協力ネットワーク形成プログラムの外国人材分科会に「おきなわ SDGsユース」が加入。「いちやりば多文化人材・沖縄県における外国人材と多文化共生の現状セミナー」について振り返り、今後の取り組みについて協議した。



分科会の様子

**2021年6月25日(金)**

14:00~16:00  
@JICA沖縄

**報告内容: 分科会**

これまでの振り返り、「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、インターンの詳細について協議した。

2021年7月15日(金)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

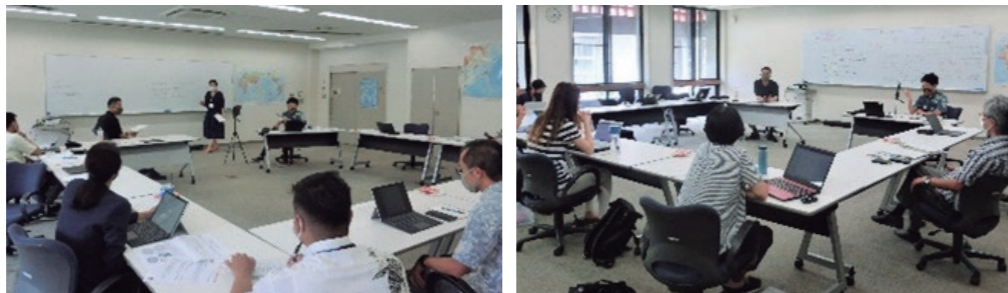
緊急事態宣言の発令、延長に伴い延期した「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続きイベント運営・役割分担について協議した。

2021年7月29日(木)

14:00~16:00  
@JICA沖縄研修室205

報告内容: 分科会

「多文化共生 OKINAWA」開催について協議を行った。



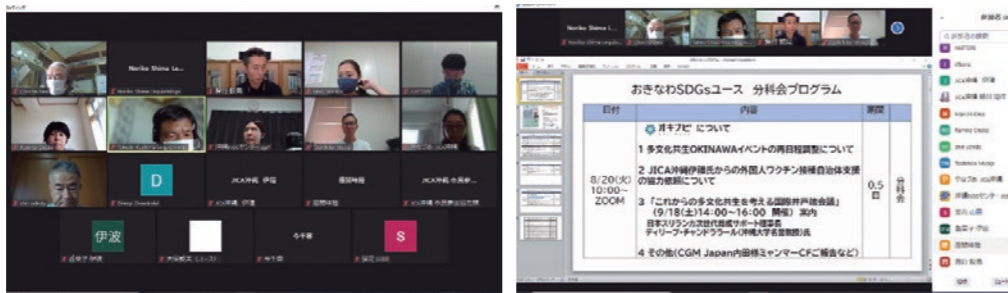
分科会の様子

2021年8月20日(金)

10:00~12:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 分科会

「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続き再延期後の日程について協議した。



分科会の様子



環境

2021年6月1日(火)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

NGOと企業のパートナーシップ形成を目的としたおきなわ SDGs国際協力ネットワーク形成プログラムの環境分科会に「おきなわ SDGsユース」が加入。「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の準備及び「アップサイクル」についての取り組みに関する検討を始めた。

2021年6月22日(火)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の準備及び「アップサイクル」に関する事例紹介、おきなわ SDGsユースのインターンの内容について協議した。



のぼりの共有

ビブス



フィリピンにおけるアップサイクル商品の紹介

2021年7月13日(火)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

「南城市あざまサンサンビーチでのビーチクリーンアップ活動」の運営確認及び「アップサイクル」、おきなわ SDGsユースのインターンの内容について引き続き協議した。



あざまサンサンビーチ

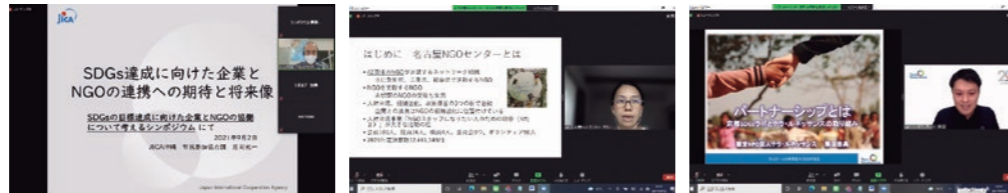
**SDGsシンポジウムへの参加**

2021年9月2日(木)

14:00~16:20  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 「SDGsの目標達成に向けた企業とNGOの協働について考えるシンポジウム」

「SDGsの目標達成に向けた企業と NGOの協働について考えるシンポジウム」では、SDGsの目標を達成するための企業と NGOの連携の方法に関する基調講演や、協働していく効果とその方法についてのパネルディスカッション等が行われた。



基調講演の様子



甲陽興産株式会社  
辻 孝博 氏



国際旅行社  
諸見里 一壽 氏



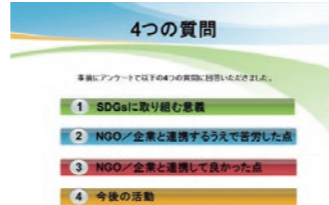
おきなわ環境クラブ  
金城 明子 氏



沖縄平和協力センター  
仲泊 和枝 氏



リボルブ  
鮫島 智行 氏



質問内容

パネルディスカッションの様子

**活動 2-1** 若者が、現地視察、研修事業やインターン等、NGO の活動に参画する

**おきなわ国際協力プラットフォームの参加団体にて研修の実施・振り返り**



食育・食品

2021年10月4日(月)

9:00~17:00  
@さし草屋 JOY工房  
@みやぎ農園

報告内容: インターンシップ

9:00~13:00  
さし草屋 JOY工房にて、さし草からのお茶づくり体験とビーガンカレー作り体験を行った。

13:30~17:00  
販売所を視察後、みやぎ農園の養鶏場や畑を見学。美らイチゴを栽培する観光農園ではアグリツーリズムについて学んだ。また加工所では、集積から梱包までの様子などを見学した。



さし草の摘み取り



カレー作り



さし草の商品



みやぎ農園の説明



宮城会長から  
有機栽培についてレクチャー



美らイチゴ視察



2021年10月6日(水)

9:30~17:00  
@新垣養蜂園  
@JICA沖縄

報告内容: インターンシップ・振り返りワークショップ

9:30~13:30  
新垣養蜂園にて、ミツバチの生態と自然環境や植物との密接な関係について講義を受けた後、実際の巣箱を見ながらミツバチがどのような生活を送って、我々が食するハチミツが採れていくのかを学んだ。

14:00~17:00  
分科会メンバーの企業の取り組みをまとめるためのワークショップを行った。



新垣養蜂園

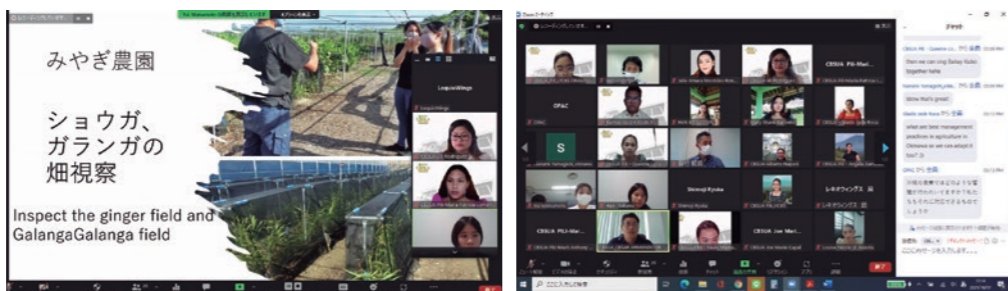
2021年10月7日(木)

10:00~17:00  
@JICA沖縄  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 発表資料まとめ・交流会

10:00~15:00  
パワーポイント資料・読み上げ原稿の作成や翻訳など発表の準備を行った。

15:00~17:00  
フィリピンビコール州立農業大学との交流会にて、分科会メンバーの企業の取り組みについてのプレゼンテーションを行った。



発表の様子

意見交換



最後に記念撮影

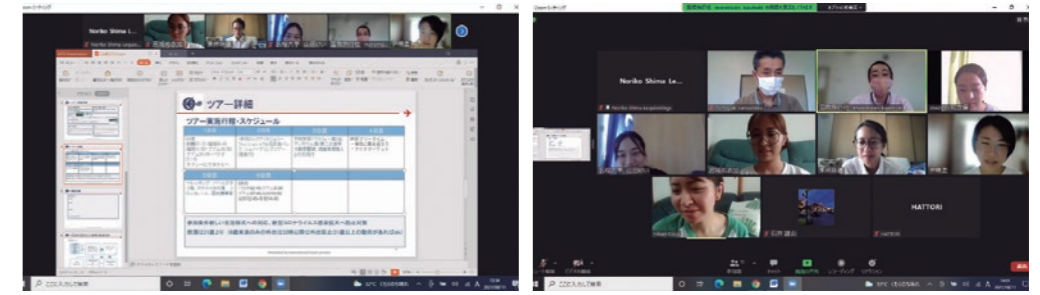


2021年8月11日(水)

10:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: インターンシップ

平和研修ツアーの企画・立案に向け、(株)国際旅行社の研修で、オンラインで意見を交換しながら実際に企画を大方完成させた。



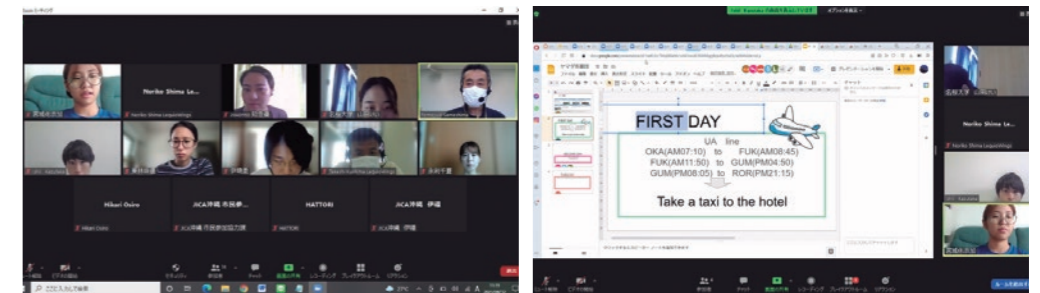
インターンシップの様子

2021年8月12日(木)

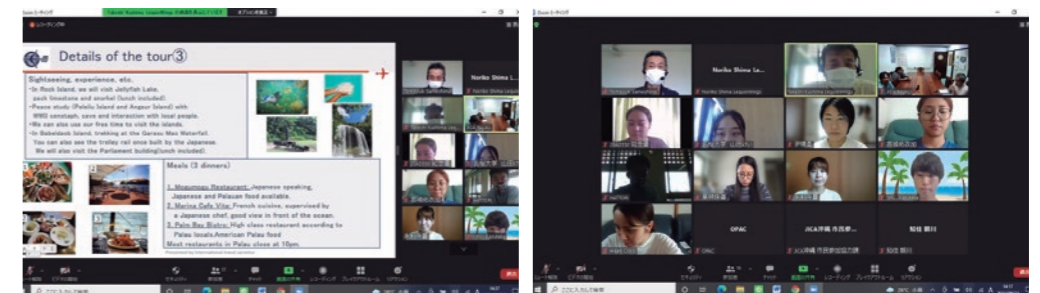
10:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 振り返りワークショップ

平和研修ツアーの企画・立案に向け、前回の分科会で作成した企画の英訳等を進め、パラオ事務所も繋ぎ発表した。発表後のフィードバックを踏まえ企画を完成させた。



企画完成作業の様子



企画発表の様子

 外国人材

2021年8月30日(金)

14:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: インターンシップ

企画立案に向けて沖縄 NGOセンターの取り組みや外国人労働者について課題等を理解し、自分たちにできることを考えた。



分科会(インターンシップ)の様子

2021年8月31日(水)

14:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 振り返りワークショップ

企画立案に向けてこれまでの分科会参加や研修を振り返り、意見交換しながら、外国人材が抱える問題解決に向けて何が出来るかを具体的に考えた。



分科会(インターンシップ)の様子

2021年10月20日(水)

10:00~16:00  
@JICA沖縄

報告内容: 多文化共生 OKINAWAイベント

多文化共生 OKINAWAイベントを開催した。アイスブレイクや学生発表、グループワークを行い、おきなわ SDGsユースはファシリテーターとして参加した。



第一部: アイスブレイク

第一部: グループワーク

第一部: 発表



第二部: 経験共有

第二部: アイスブレイク

第二部: 発表

 環境

2021年7月18日(日)

10:00~12:30  
@あざまサンサンビーチ

報告内容: ちりひろゆんプロジェクト In あざまサンサンビーチ  
~第1回 琉球クリーンアップイベント~

沖縄がいつまでも綺麗でいられるようにみんなで楽しくクリーンアップをする活動として、ごみを拾うだけでなく、分別の仕方やごみの行方、拾ったごみの正体など、みんなが知らない「ごみのこと」を大人も子供も楽しく学べるイベントを目指し、開催した。



イベントの様子

2021年7月19日(月)

10:00~17:00  
@おきなわ環境クラブ

報告内容: インターンシップ

おきなわ環境クラブの業務についての説明後、修学旅行等でのプログラムとしてのクラフトづくり体験を行った。



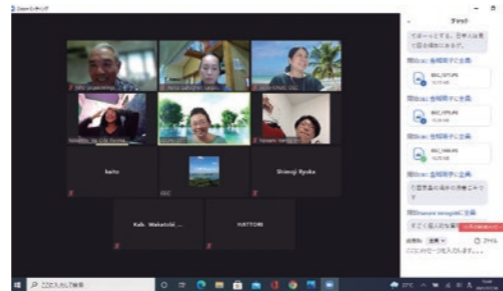
インターンシップの様子

2021年7月20日(火)

10:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: インターンシップ

おきなわ環境クラブが行った「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根ざした環境保全型観光開発の推進」プロジェクトをもとに、質疑応答を行いながら、国際協力事業について学んだ。



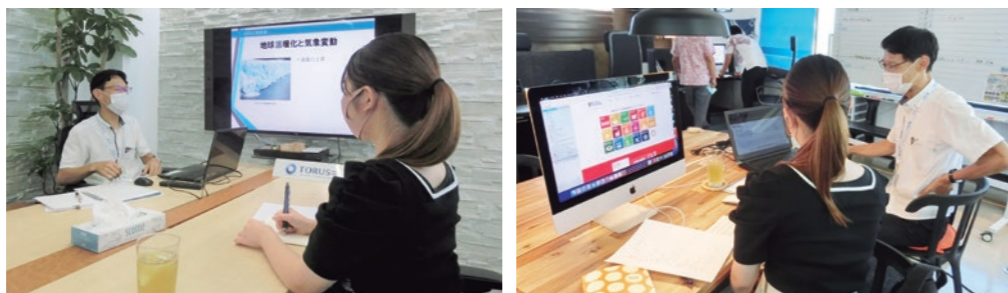
インターンシップの様子

2021年7月28日(水)

14:00~16:30  
@トーラス株式会社

報告内容: インターンシップ

企画立案に役立てるため、トーラス(株)のSDGs達成に向けた取り組みを学び、ワークショップでは、インターネットサイトのコンテンツを作成した。



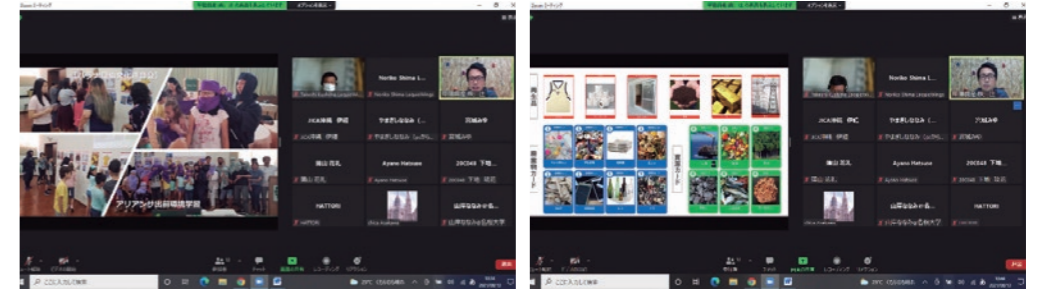
インターンシップの様子

2021年8月13日(金)

10:00~16:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: インターンシップ

企画立案に役立てるため、甲陽興産(株)の廃棄物処理等の事業内容やSDGs達成に向けた取り組みを学び、ワークショップでは、環境学習SDGsゲームを体験し、環境問題とSDGsについて考えた。



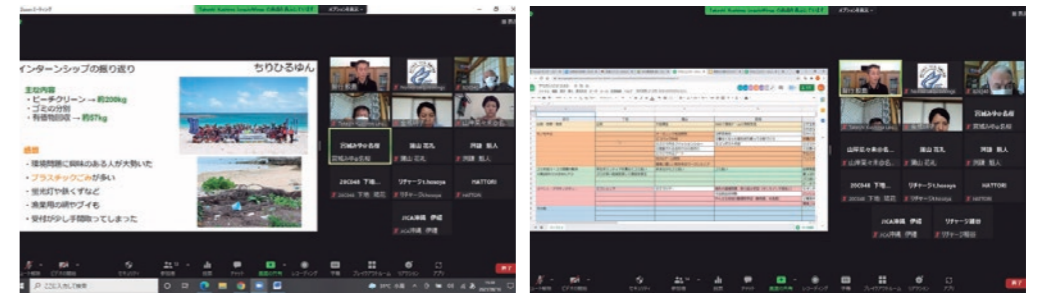
インターンシップの様子

2021年8月16日(月)

13:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 振り返りワークショップ

企画立案に向けてこれまでの取り組みを振り返りまとめ、今後の企画立案に向けた提案を踏まえ発表した。また、7月18日(日)に開催した「ちりひるゆんプロジェクト」の反省会も実施した。



分科会の様子

活動 3-1 プロジェクト企画・立案ワークショップ及び  
問題解決のためのプロジェクトサイクルマネージメント研修を行う

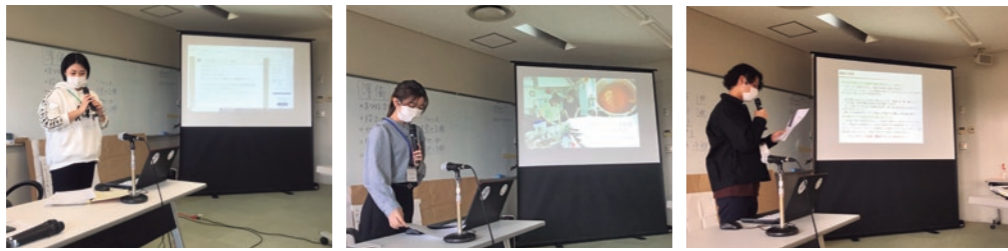
プロジェクトの企画・立案と PCM研修を通し、問題解決のノウハウを学ぶ

2021年12月5日(日)

14:00~17:15  
@JICA沖縄

報告内容: PCM研修

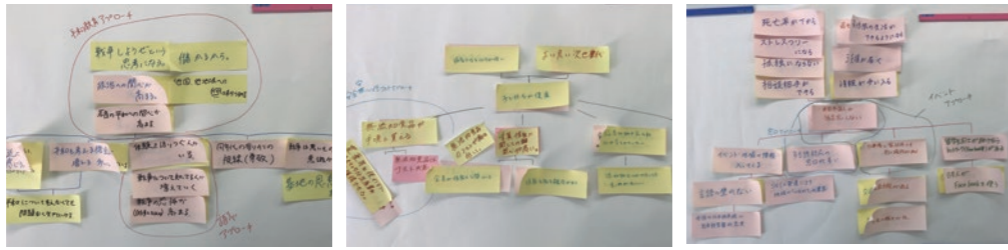
各分科会の進捗状況を報告後、分科会ごとに報告会に向けての最終目標及び進行スケジュールについて意見交換を行った。また、開発援助プロジェクトの計画・実施・評価という一連のサイクルを「PCM」を用いて運営・管理する方法における計画・立案の手法を実際の例を参考に理解し、分科会ごとに課題を1つ設定し、演習により実際に体験しながら習得した。



発表の様子



ディスカッションの様子



PCM研修の様子

食育・商品開発

2022年1月~2月

@浦添市内

報告内容:

食育を学ぶカードゲーム制作にプロジェクトを定め、1月に試作期間、2月に制作期間として、食育ゲームを作っていた。2月25日には、作成した食育ゲームを実際に浦添市内の児童館で、実践した。その結果を3月3日の成果報告会にて報告する予定である。



児童館での食育ゲームの様子

平和

2022年2月17日(木)

15:00~17:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

前回のフィードバックをふまえ、改善した平和研修ツアーの発表を英語・日本語で行った。発表後、パラオ事務所との質疑応答を行い、分科会メンバーからフィードバックをもらった。



分科会の様子

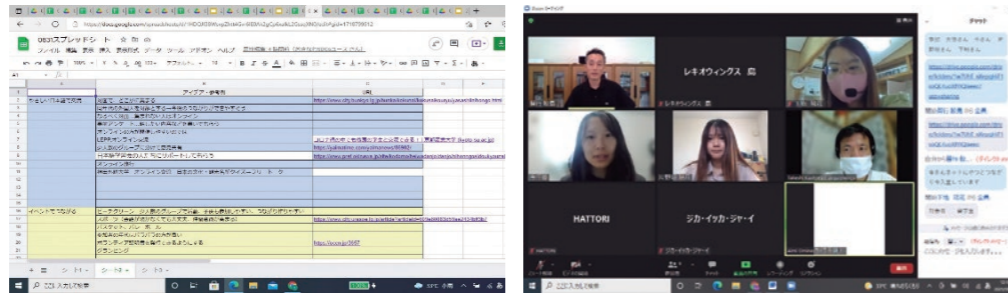
 外国人材

2021年9月10日(金)

10:00~12:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 企画立案ワークショップ

分科会での企画案発表に向けて、意見交換をしながら発表資料を作成した。



話し合いの様子

2021年9月17日(金)

10:00~12:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 分科会

「多文化共生 OKINAWA」イベントについて、引き続き再延期後の日程について協議した。またユースが企画についての案を発表し、分科会から助言を得た。



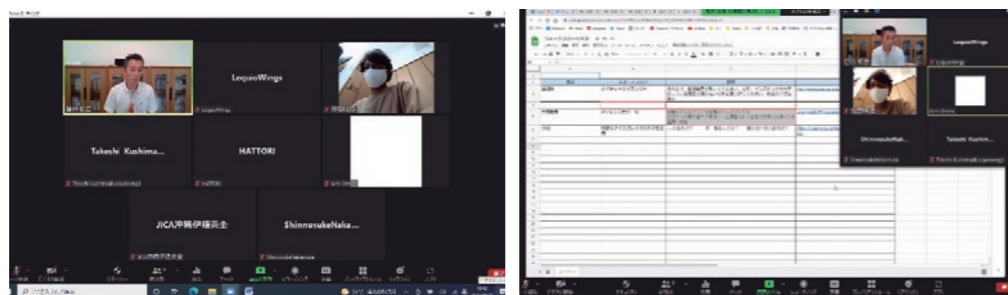
分科会の様子

2021年9月27日(月)

10:00~12:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 企画制作ワークショップ

企画案についての分科会からの助言を踏まえ、より具体化した。



話し合いの様子

2021年10月15日(金)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

今後の活動予定である外国人と沖縄の人々の交流を目的としたウォークラリーの企画・運営について報告し、分科会メンバーからアドバイスを得た。



会議の様子

グループワークデモンストレーション

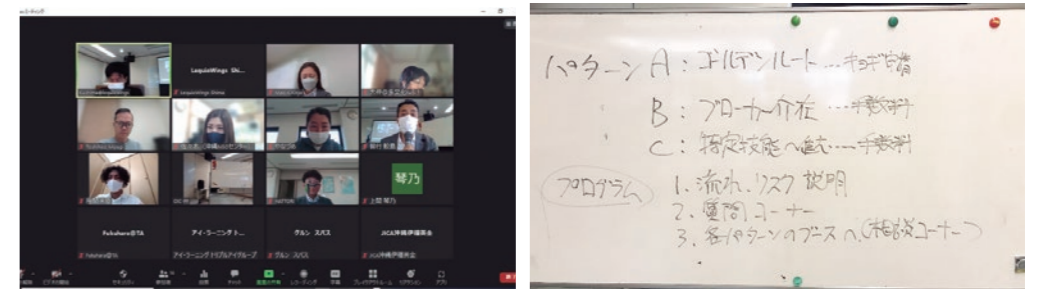
ユースのプレゼン

2022年1月11日(火)

10:00~12:00  
@JICA沖縄

報告内容: 分科会

多文化共生 OKINAWA Vol.2 イベント企画案が話し合われた。



分科会の様子

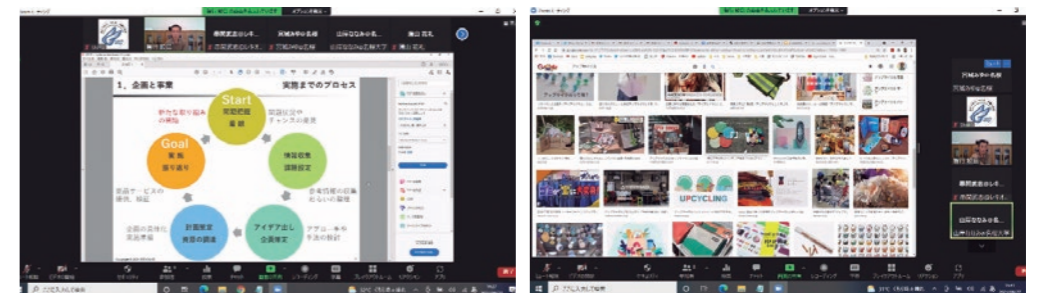
 環境

2021年8月27日(金)

13:00~17:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 分科会

企画案の分科会での発表に向けて、意見交換をしながら企画のコンテンツを作成した。



分科会の様子

2021年9月16日(金)

10:00~12:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 分科会

企画案について分科会で発表をし、助言を得た。



分科会の様子

2022年1月20日(木)

13:30~14:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 成果報告に向けた話し合い

成果報告会に向け、成果発表方法やプレゼン資料作成についてのスケジュールについて話し合った。



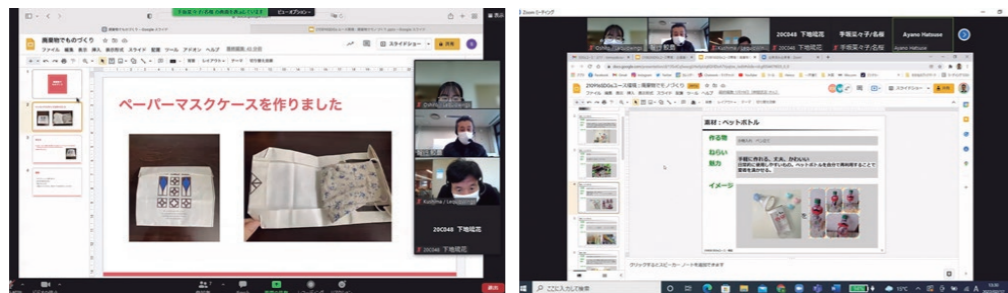
話し合いの様子

2022年2月17日(木)

13:00~15:00  
@Zoom(オンライン開催)

報告内容: 成果報告に向けた話し合い

実際に廃棄物でモノづくりを行った感想を発表した後、成果報告会に向け、各々の担当や、プレゼン資料作成の進め方について話し合った。



話し合いの様子

活動 3-2 成果報告会

プロジェクトの企画・立案と PCM研修を通し、問題解決のノウハウを学ぶ

2022年3月3日(木)

14:00~17:00  
@JICA沖縄

報告内容: 成果報告会

食育・商品開発、平和、外国人材、環境グループから成果報告と専門家による講評が行われた。その後、グループごとにこれまでの取り組みについてディスカッションを行った。ディスカッションでは、おきなわSDGsユースがこれまで学んだこと・今後実行したい活動を付箋紙に書き出し、分科会メンバーはそれに対するフィードバックや将来の活動に向けたアドバイス等を行った。



2022年3月3日(木)

14:00~17:00  
@JICA沖縄

報告内容: 成果報告会

成果報告

発表者: 松元 ゆい 氏

食育グループは、「子どもたちが楽しみながら食について学べたら」という思いをきっかけに、食育を学べるカードゲームを作成した。具体的には、先に5つの栄養素を全て揃え、集めた食材カードを組み合わせる料理を作った人が勝ちというもの。また、ゲームを通して、食材を組み合わせるバランスのとれた食事を作れるようになることを目標としている。

試行錯誤を経て、2月25日(金)、実際に学童の子ども達にカードゲームで遊んでもらったところ、子どもたちが楽しそうに遊ぶ様子や、カードゲームとしてきちんと成立している様子を見ることができた。しかし、ゲームが終わるのに時間がかかってしまうことや、印刷方法などの改善点も見つかったため、ルールの変更や表示方法の変更などの改善策を最後に発表し、成果報告とした。

講評: 食育、商品開発・マーケティング分科会

みやぎ農園 新里 修三 氏

シンプルに分かりやすいカードゲームになっていてよかったと思う。今後も、改善点を改善するなど改良し、実際に小学校で食育について学ぶ際に使用できたらよい。

**さし草屋 小松崎 礁氏**

分科会でもカードゲームの開発を行ったが、食育・商品開発グループと同じようにどこまで情報を盛り込むか、どこまでシンプルにするかというところで苦労した。そのため、伝えたい情報を絞りながら作成し、実際にカードゲームをトライアルできたことが素晴らしい。



成果報告の様子

**ディスカッション**

**学んだこと**

**出来たこと**

- 設定した目標は達成できた

**学んだこと**

- 情報(カロリー数の表記、塩分量に制限かけるなど)が増えると難易度が高くなる
- 今回制作したカードゲームは年齢に合わせて情報を増やすなどしてそれぞれの年代に合わせた難易度に設定できる+食への学びを深められる

- ヴィーガン料理の作成には多くの食材が必要となること(肉などの旨味の代わりになるように)
- 沖縄の農業について地産地消の現場を見られて良かった
- 身近にある植物が持続可能で栄養がある
- 沖縄本土の地域によって適した食材がある

**やってみたいこと**

- 食材は自分たちで作る(発信と発展)

**やりたいこと**

- 子供たちと実際にゲームをしたい(食育になっていた)

- 海外の農業についての交流・学習をもっと行うべきと感じた
- 食材を作る過程を体験したい
- 幅広い年代の方に向けたゲームを作成したい。(発信していきたい)

**フィードバック**

**みやぎ農園 新里 修三氏**

年代別のカードゲームを作りたいということだが、学校教育などで実際に使用していけたらと思う。また、おきなわSDGsユース全体としては、この事業への参加が、学校で単位として認められれば、学生も参加しやすくなるのではないかな。



ディスカッションの様子



2022年3月3日(木)

14:00~17:00  
@JICA沖縄

**報告内容: 成果報告会**

**成果報告**

**発表者: 永利 千夏氏、栗林 珠優氏、知念 優氏、宮城 佑衣加氏、石井 雄山氏**

平和グループは、「パラオツアー」を企画するに至った経緯と、その具体的なツアー内容について発表を行った。まず、その経緯として、「南洋諸島・慰霊と交流の旅」が終了したことから、新たな形で次世代に平和への思いを引き継ぐという課題があったことをあげた。企画を行うにあたって、様々な情報収集を行い、パラオと沖縄のつながりについての歴史や、SDGs、新型コロナウイルス感染症の感染状況などをふまえながら、ツアーの対象者やツアー内容を決めていった。また、企画を進める中で、JICA/パラオ事務所や国際旅行社、沖縄平和協力センター等にオンラインで中間発表を行い、フィードバックをもらいながら、より実現可能で魅力あるツアーづくりに取り組んでいった。

**講評: 平和分科会**

**国際旅行社 諸見里 一壽氏**

平和や環境に配慮することについてなどを考える、なかなか他にはないツアーになったのではないかなと思う。観光地としてだけではなく、パラオについて、その歴史や自然を自分事として学ぶことのできる、とても意味のあるツアー内容になっていた。

**沖縄平和協力センター 仲泊 和枝氏**

当初は沖縄からパラオへの慰霊墓参団の方の高齢化に伴い、慰霊の旅が終了してしまったことから、平和の思いを引き継ぐという目標でこの企画は始まったが、ツアーを企画していく中で、SDGsの目標達成に寄与するために環境に配慮した内容になっていった。新型コロナウイルスの影響で実際に行くところがないにもかかわらず、よくツアーを完成させたと思う。ツアーが実現できる日が来ることを祈っている。



成果報告の様子

### ディスカッション

#### 学んだこと

##### ブラッシュアップ

- 何度もブラッシュアップすることの大切さ、方法

##### 沖縄とパラオ

- 沖縄県とパラオの間にある深いつながりと歴史
- 戦争と沖縄とパラオについて学んだ

##### パラオ

- パラオについて(交通・文化・流行)

##### 旅行

- 旅の作り方
- 値段の面にも気を使いながら旅を考えなければいけないこと
- ツアー作りでは、行く人が楽しむことだけでなく、行く地域に良い何かを与えることを考える必要性を学んだ

##### コミュニケーション

- たくさん意見を反映させる大切さ
- 自分の気持ちを文字にすること、言葉にすること

##### オンラインコミュニケーション

- オンライン会議を設定しコミュニケーションを図ること

##### その他

- SDGsゴールへの取り組み方
- モチベーションがずっと持たなかった。メンバーに救われた
- コロナの歯がゆさ
- 本来の目的を軸に考え続けることの難しさ
- 能動的・積極的に動くことの難しさ・大切さ
- 自分にできることを探す力
- 沖縄県としての特殊性

#### やってみたいこと

- 沖縄離島ツアー作るぞ!
- もうちょっとブラッシュアップ!! (ホテル決める、ご飯屋さん決める) 実際に行って決めたい
- ツアープランをもっと練り上げて売り込める成果物を作る
- 旅のスポンサー探し!!
- 実際にパラオに旅行に行きたい!!
- パラオ以外の国を対象にツアープランを作ったらどうか

##### クラウドファンディング

- 社会に必要とされるもの
- スポンサー・応援してくれる人増やす
- 国際旅行社で今日のようなツアープランを組むプラットフォームを今後作成していきたい
- パラオやパラオと沖縄のつながりについて発信する
- パラオについてもっと知る!
- 通訳できるようになりたい
- コミュニティづくり
- 平和を作る

#### フィードバック

##### 国際旅行社 諸見里 一壽 氏

旅のスポンサー探しを行いたいということだが、クラウドファンディング等を活用するのも良いのではないかと。その場合、「SDGs」や「若者を支援する」といった、応援されやすいものを前に打ち出すことで応援者を増やすことが必要。また、他の国でもツアープランをつくりたいということだが、ぜひ、国際旅行社が実現させるプラットフォームになり、他の旅行ツアーとまたひと味違うツアーと一緒に作り上げたい。



ディスカッションの様子

### 外国人材

2022年3月3日(木)

14:00~17:00  
@JICA沖縄

報告内容: 成果報告会

#### 成果報告

発表者: 片野坂 映月 氏

外国人材グループは、これまで、「外国人材の孤立」を課題として、交流の機会をつくるためにウォークラリーの企画を行ってきた。しかし、実際に糸満青少年の家を訪問し、館長の話聞き、施設を見学する中で、食べる、寝るという生活を通してより交流が深まるのではないかと考え、キャンプへ変更することとなった。

参加者は日本人10人、外国人10人を想定し、日本人と外国人が良くコミュニケーションを取れるようにゲームの企画やチーム分けを工夫した。また、食事は、沖縄の郷土料理であるタコライスをつくり、文化交流を行う予定だとした。新型コロナウイルスの影響で実際に開催するには至らなかったものの、最後に作成したイベントチラシを発表し、成果報告とした。

講評: 外国人材分科会、キャパシティビルディング

ジャンボツアーズ 宮城 俊彦 氏

どうしても外国人材というと遠くの国の方々に目を向けがちだが、沖縄にも支援を必要としている外国人材は多くいる。そこに目を向け、対象を沖縄に住む外国人材の方々にしたことがすごい。アドバイスとしては、宗教上、ミートを食べることのできない人々に配慮し、タコライスというメニューを変更してはどうだろうか。沖縄の食べ物ではなく、相手の国の食べ物を一緒に作り、食べるのも面白そうだと思う。

ジャンボツアーズ グルン・スバス氏

実際に参加したいと思うようなイベントに仕上がったのではないかと。外国人材にとって正しい情報を得る貴重な機会になるため、参加したいと思う外国人材も多いと思う。また、私も、タコライスではなく、どこかの国の人でも食べられるように、相手の国の伝統的な料理と一緒に作るのが良いのではないかと。思う。

日本スリランカ次世代育成サポート デイリープ・チャンドララル氏

沖縄の人々と外国人材が仲良くなるにはとても良いイベントだと思う。アイデアとして、ウォークラリーを昼に行うのも、相手の表情が見えて良いのではないかと。そして、実際にイベントを開催する際は、文化の違いに配慮しながら行えればと思う。



成果報告の様子



### ディスカッション

#### 学んだこと

- ユースのメンバーとスケジュールを合わせるのが難しかった
- 夜にミーティングをすると参加しやすい
- コミュニケーション
- 外国人材同士が集まる SNSが確立していない
- コロナワクチンの多言語化の窓口がまだ十分ではない
- 自分主体でイベント内容を考えてしまいがちだが、相手主体のものを考えなければならない
- 国によってスポーツのルールが異なるから、誰でもすぐに参加できるルールを作る必要がある
- イベントの対象者をしばって、よりその対象者にいいイベントにするようにする
- 様々な食文化を理解しなければいけない。
- アバウトなコンセプトよりも、より具体的なコンセプトにするのが大切
- 労働環境がよくない場も存在する

#### やってみたいこと

- 困ったときに助ける場所が、もっと行きやすい場所になればいい
- コミュニケーションが問題解決の手助けになる
- 行政など、敷居が高いものよりもっとカジュアルない場所が求められる (caféなど)

### フィードバック

#### ティーエーネットワーク 土屋 克成 氏

外国人材が困ったときに助けられる場所が、今よりもカジュアルで参加しやすい場所になったら、もっとサポートしやすくなるのではないかと、ということだが、外国人材分科会では、それを実現するための活動を行っている。ぜひ参加していただけたらと思う。



ディスカッションの様子



環境

2022年3月3日(木)

14:00~17:00  
@JICA沖縄

報告内容: 成果報告会

成果報告

発表者: 手坂 菜々子 氏、山岸 菜々未 氏、初瀬 綾乃 氏

環境グループは、ごみを簡単に捨てるという考え方をあらため、再利用する考え方を広めることを目的とし、アップサイクルの手法を調べ、実際に「廃棄物でモノづくり」を行った。紙袋や厚紙、包装紙、ペットボトル等、ごみとして捨てられてしまうものを使用し、マスクケースやペンケース、小物入れ、ブックカバーを製作

したが、その感想として、「自分で作ったことで愛着が湧いた」「手軽にできる」「自分の好きなデザインで作ることができる」などがあげられた。最後に、簡単に物を捨てることはできるが、アップサイクルで可能性が広がり、また、幼いことからアップサイクルが当たり前になるとその可能性はより大きなものになるとまとめ、成果報告とした。

### 講評: 環境分科会

#### トーラス 當銘 由輝 氏、大塚 学 氏

これまで、ごみ拾いのイベントを行ってきたが、そもそごみを捨てなければ捨てる必要もないため、ごみを簡単に捨てるという考え方をあらためるといった目的設定はすごいと思った。また、発表にあったアップサイクルも、おしゃれで手軽なものでよかった。今後、イベントなどでアップサイクルを学生が教え、参加者がより身近に、自分事としてとらえられたらと思う。

リサイクルをすることはごみを削減する事だけではなく、限られた資源を守ることにもつながる。アップサイクルの考え方はとても素晴らしいと思った。



成果報告の様子

### ディスカッション

#### 学んだこと

- |  |  |
|--|--|
| <b>認識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「アップサイクル」という言葉を知った</li> <li>● 今起きている現状の再認識</li> <li>● 再利用するという発想</li> </ul> | <b>集まる力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人が集まると大きな力になる</li> <li>● 若い人の発信</li> </ul> |
|  | <b>可能性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本来の形のまま再利用することに魅力</li> </ul>                 |

#### やってみたいこと

- SNSも良いけど…
- ハードルが高い(見るだけ)
- ごみ拾い(継続する)
- 友達と一緒につくる
- 実際の教育現場に行ってアップサイクルのモノづくり
- ワークショップ

### フィードバック

#### トーラス 當銘 由輝 氏

捨ててしまうモノにも価値があるという気づきについては、まず、家族や友人、学校でモノづくりを体験してもらい、その価値を共有して解決していくしかないと思った。また、SNSでアップサイクルを見た方が、実際に作るのか、ハードルが高いという意見については、見た人が作りたと思うような工夫ができるよいのではないだろうか。



ディスカッションの様子

修了式

修了証の授与・賞品の授与

レキオウイングス安和より、おきなわ SDGsユースひとりひとりに修了証の授与が行われた。また、さし草屋からはさし草セット、みやぎ農園からはマヨネーズ・野菜、オキコからはパン、ティーエーネットワークからはペン、JICA沖縄からはエコバッグなどの賞品が授与された。



修了式の様子

閉会式

閉会の挨拶

レキオウイングス 申間 武志

新型コロナウイルス感染症の影響下、食育・商品開発グループ、平和グループ、外国人材グループ、環境グループの4グループ全てが無事に成果報告を行えたことが本当に素晴らしいと思います。

写真撮影

最後に写真撮影を行い、成果報告会を終了した。



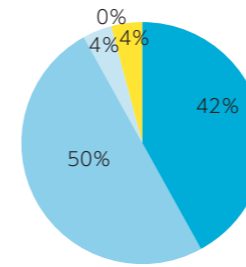
写真撮影

本事業の目的のひとつである「次世代のおきなわ国際交流・国際協力の架け橋となる担い手として、プログラム参加者の将来展望及び個人の成長における良い変化が起きる」ことの達成度合いをはかる指標として、I【将来の展望】、II【個人の成長】、III【今後の活動】の三つの評価項目を設置し、アンケート調査を行いました。

I 【将来の展望】について

質問1：このプログラムへの参加は、将来に良い影響を与えたいと思いますか？

全体の結果として、「5：とてもそう思う」と回答した参加者が42%、「4：そう思う」50%、「3：普通」4%、「2：そう思わない」0%、「1：思わない」4%である。以上より、参加者の92%は本プログラムの参加によって将来に良い影響を与えたいと回答をした。



- 5：とてもそう思う
- 4：そう思う
- 3：普通
- 2：そう思わない
- 1：思わない

なぜそう思いますか？

食育・商品開発

- 将来目標に向かって進むときに、ここで体験したことを活かすことができそうだったから。
- なかなか活動自体には参加出来なかったが、色々な人の考えや発想に触れることが出来た。
- 食品開発という、普通の学生生活では経験できないことに関わらせていただいたことで、普段何気なく購入していた商品の背景を知ることができ、自分の中で将来の可能性が広がった。
- 最後のプロジェクトは、私にとって挑戦でした。大変なこともありましたが、新しい知識を沢山得ることが出来ました。特に、マネジメントとリーダーシップの意味を体験的に理解することが出来たことは貴重な経験でした。この経験は将来大きな影響を与えます。

平和

- 学生として自ら考え行動することができた。やりたいたって行動したという経験は、大人になっても自分を勇気づけると思う。
- この機会が無ければパラオのことを知る事が出来なかったが、このSDGsユースに参加したおかげでパラオについて知ることができたから。自国だけでなく、海外に目を向けることの大切さを感じた。
- パラオと沖縄のつながりについて知ることができたから。また、他大学の学生との交流があったから。
- 大学での学習ではできない体験ができたから。
- 平和やSDGsに意識を向けるようになったのと、グループで何かをする時、どのように進めていけばいいのか学べたから。
- 私が参加した平和分科会で行っていたことは、以前から私自身がやりたかったSDGsに特化したツアープランを考えるということだったからです。
- 自分が、意味で考えたことがないパラオの問題について考えることができたから。またそれと同時に沖縄の歴史とパラオの関係性についても学ぶことができた。このことは、将来自分たちのアイデンティティとして大切なことだと思う。また、旅行プランを考える上で計画的に考える大切さを学べた。

外国人材

- 目的が果たせるというか、それにつなげられるプロジェクトの進め方ができた。
- 今まで、企画を作るという経験をしたことがなかった。この活動を通して、企画作りを体験できたので、いい影響を与えたと思う。
- ボランティアや自分から活動するのとの大切さを知った。
- 自分で企画を考えるという作業が大学の授業ではないため。
- 課題解決のためのプロセスを学べたから。

環境

- 様々な企業等とSDGsに向けて目標を共に考えて行くことや、同じ世代の人同士で一つの問題について解決していくという機会はなかなかないからです。
- チームそれぞれの時間帯や日程が合わない。
- SDGsについて知ることにより自分の生活でどのように意識したら環境に優しいのか世の中で起きている問題について知ることができたため、自分の考え方や行動を変えることができたから。
- 今までの環境に私たちが起こしてきた行動がどのような影響を与えているのか深く知り、環境だけでなく、生物にまで沢山の影響が出ていると知ることができたからです。
- 後半、プロジェクトにあまり参加しなかったから。
- 今やっていることが未来とどうつながっているのかを考えることができる機会になったためです。
- さまざまな企業の中身を勉強する上ではとても良かったと思う。ただ、実際にプロジェクトを立てていく上では学生だけでやりたいという意見もあり、自分としても学生だけで進めていくことで言い合えたりする部分は多かったように思う。
- 新しく知ったことも多く、大変勉強になったため。

質問2：このプログラムで学んだことや経験したことを活かして、今後やってみたいと思うことを教えてください。

食育・商品開発

- 畑などをもって、自分で食材を育てたい。
- 自分自身が考える企画や発想を、形にしていきたい。
- フィリピンの大学生とオンラインで交流し、つながることができたので、機会があれば直接交流したい。
- 最後のプロジェクトでマネジメントの経験をさせていただいたのですが、大変でした。マネジメントが苦手な人は多いのではないかと感じたため、そんな方々の負担が少しでも軽くなるようなものが作れたらと思います。

平和

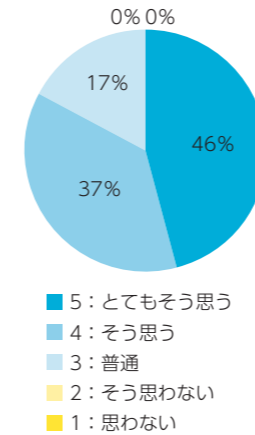
- アニメの聖地巡りのツアーを作って見たいと思った。そのために、1度は自分の足でその地を訪れるようにしたい。
- このプロジェクトでは、パラオと沖縄の平和についてしっかり勉強しつつも目一杯楽しめるツアー作りを目指してたくさん試行錯誤した。学びと遊びのバランスを考えることが難しかった。また、現地の方々からのご指摘でたくさんの改善点が見つかり、多くの人の意見を取り入れることの大切さを感じた。今後もこのツアーを実際に実施出来るように話し合いを重ねたい。また、パラオ以外の国との沖縄の繋がりについて調べたいと思った。
- パラオを訪れたり、パラオと沖縄の繋がりについてもっと知ること。
- 平和はどのような要素から作られているのかをもっと深く考えていきたい。
- 具体的ではないのですが、誰かと一緒に協力して何かに取り組んでいきたい。
- このプロジェクトで、SDGsに貢献する方法を学べたと思います。この力を活かし、今後他の国のSDGsのツアープランの作成なども行っていきたいなと考えました。
- 周りの友達を、沖縄の離島ツアーに連れて行ってあげたい。自分で船の便や宿を決めてそれを運営していく。今年の夏にやる予定だ。もっと、将来的には大きなイベントとかを作りたい。

外国人材

- 今後は、外国人材関連だけでなく、環境についても学びを深めたいです。今回の糸満青少年の家でフィードバックをもらった際に、すごく人の心の根本にあるものは自然だと思いました。自然の力はすごくて、少し海を見たり散歩したりするだけでも自分を見直せたりする。
- 在日外国人が、生活しやすい社会を作るために、何か協力できればいいなと思う。
- もっと大がかりなボランティア活動に参加してみたい。
- サークル内でウォークラリーを企画し、実際に行うこと。
- 課題を分析し論理的に考え解決策を探る。

環境

- もっと積極的に他のイベントやワークなどにも参加して自分の可能性を広げたり、挑戦をしていきたい。
- JICAやNGO関係。
- イベントで若者たちにSDGsを知ってもらえるブースを作りたい。また、簡単にまとめた環境に優しい取り組みを動画にまとめて発信したい。
- このプロジェクトを通して、環境には自然だけではなく、自然に住んでいる生物などに沢山の影響が出ていると分かった。これからの私生活で、普段ポイ捨てをする人を見かけることがあるが、ポイ捨てをさせないくらい綺麗になるようにゴミ拾いをしていきたいと思います。
- ビーチクリーン活動。
- 継続的な資材の利用。資源の効率的な再利用化。
- 0→1ベースの組み立て方に加えて、0円稼げるノウハウなども身につけられるような活動をやりたい。
- アップサイクルに関して、友達や人と関わる機会を通して広めていきたい。



質問4：プログラム参加前に比べ、国際社会の一員として社会に役立つ行動をしたいという意欲が強くなりましたか？

全体の結果として、「5:とてもそう思う」と回答した参加者は46%、「4:そう思う」37%、「3:普通」17%、「2:そう思わない」、「1:思わない」0%であった。本プログラム参加前と比べ、83%の参加者が国際社会の一員として社会に役立つ行動をしたいという意欲が強くなったことがわかる。

あなたが実践したいと考える、社会に役立つ行動を教えてください。

食育・商品開発

- 持続可能な、食材を作っていくこと。
- 仕事だけに限らず、生活の中で自分がする行動を、自分だけでなく他者の為ということも考えて動く。
- 子供食堂など、人と人のつながりを作る場でボランティア活動を行いたい。難しかったり複雑な内容でもゲームだと理解しやすいとカードゲームを制作しながら感じたため、何か学べるゲームを制作出来たらいいなと考えています。

平和

- 自分がSDGsや社会問題に関心があるということをSNSなどの公の場で述べる。エコバッグやマイ箸を使うようにする。海に優しい日焼け止めを使うようにしたい。
- ビーチクリーン、外国人技能実習生向けの日本語サークルでの活動への参加。
- 声明活動や発信活動。
- 現地に行って現地の方と交流する。
- SDGsなどに関する情報を集め、実践して、周りに話す。
- 先に海外に目を向けるのではなく、まずは沖縄に目を向け、沖縄の問題解決に直結するような行動をしたい。例えば、子供支援などに貢献していきたい。
- SDGsの中で特に、海の豊かさを守ることを実践していく。そのために自分の今やっているビーチクリーン活動を続けていく。また、多くの人を巻き込んでいきたい。

外国人材

- とりあえず知るということ。私たちまだ世界の半分も情報を知れてない気がします。知っていたとしても表面でしか理解できてなくて、その奥にある原因とかそれによって起こる影響だとか調べれば調べるほどたくさんの情報があります。だから、まだ知ること。その現状を知って、身の回りで出来ること小さなアクションでいいから起こすことが大事だと感じました。このプロジェクトもそうで、日常生活で知ることのなかったことを知れたし、それを企画として形にできた。これだけでも、立派な社会貢献だと思いました。
- 困っている人の手助け。外国人関係なら、相談に乗ったり、慣れない土地を優しく紹介したりすること。これが、今の私にでもできる社会貢献だと思う。
- 社会問題に対する疑問や意見を自分の中で留めず、人に伝えていくこと。
- 搾取の実態を知り伝える。

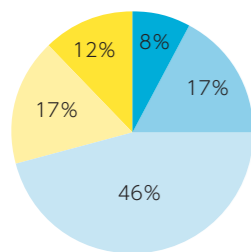
環境

- 利益を考えるよりも前に人々の健康や幸せを考えて、まずはできる範囲から実行していくこと。
- SNSでの自分が得た知識や情報の発信。
- SDGsを認知してもらって若者中心のイベントを開催したい。
- まずは簡単にできるごみ拾い。
- 支援はもちろん、日々のごみ拾いの実践など小さな行動を積み重ねる。
- 個人として活躍できる時代にするためにも自分の力だけで稼ぐスキルや将来絶対役に立つスキルなどに活かしたい。
- 日本語教師の資格を取り、日本にいる外国の子供たちをサポートしたい。

質問3：あなたは、プログラムで得た知識や経験を、今後どのように他者に伝えますか？  
その他と答えた方は、具体的に記してください。

本プログラムで得た知識や経験の他者への伝え方として「ア:事業報告会」と回答した参加者が8%、「イ:レポートの執筆」17%、「ウ:HP、ブログ、SNS等で発信」46%、「エ:公の場での発表」17%、「オ:その他」の回答として、「身近な人や友人に話をする」等が挙げられている。「HP、ブログ、SNS等で発信」が全体の46%を占めた。

- ア:事業報告会
- イ:レポートの執筆
- ウ:HP、ブログ、SNS等で発信
- エ:公の場での発表
- オ:その他

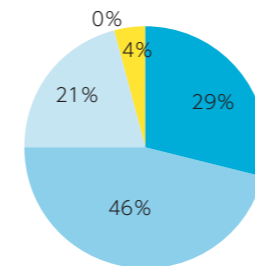


質問5：プログラムへの参加は、あなたの職業選択(起業や独立も含む)の希望に影響を与えましたか？

全体の結果として「とてもそう思う」29%、「そう思う」46%、「普通」21%、「そう思わない」0%、「思わない」4%である。本プログラムを通じ、全体の75%が職業選択に対し効果があったことが分かる。

また、参加者の回答の中には、「紛争解決や平和構築難民支援に関わる仕事」「日本語教師」「JICA青年海外協力隊」「国際協力師、NGO」など、国際協力の職に就きたいという回答があり、本プログラムが企画した次世代の国際協力の担い手育成に寄与できたといえる。

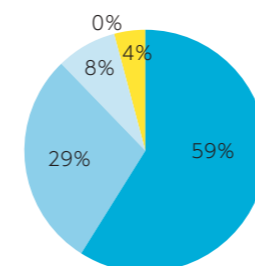
- 5: とてもそう思う
- 4: そう思う
- 3: 普通
- 2: そう思わない
- 1: 思わない



質問6：プログラムの経験を次の若者に伝えていきたいという意欲はありますか？

経験を次の若者に伝えていきたいという意欲のアンケート集計結果として、「とてもそう思う」59%、「そう思う」29%、「普通」8%、「そう思わない」0%、「思わない」4%であり、88%の参加者が本プログラムの経験を次の若者に伝えたいという強い意欲を得る結果となった。

- 5: とてもそう思う
- 4: そう思う
- 3: 普通
- 2: そう思わない
- 1: 思わない

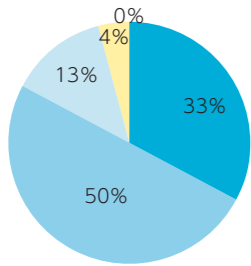


II 【個人の成長】について

このプログラムが、グローバル人材としての個人の成長に与えた効果について以下の8つの視点で確認しました。

(1)：コミュニケーション力

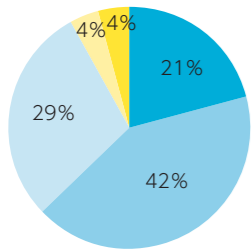
コミュニケーション力の成長に与えた効果の全体結果として、「著しく効果があった」と回答した参加者は4%、「大きな効果があった」33%、「効果があった」50%、「あまり効果がなかった」13%、「効果がなかった」0%である。以上のことより、コミュニケーション力は本プログラムを通じて87%の参加者に効果があったといえる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(2)：リーダーシップ

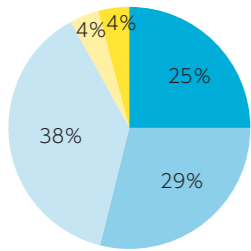
本プログラムを通じて、リーダーシップ力が「著しく大きな効果があった」と回答した参加者は4%、「大きな効果があった」21%、「効果があった」42%、「あまり効果がなかった」29%、「効果がなかった」4%という集計結果である。以上のことより、67%の参加者はリーダーシップ力に対し効果があったと回答をしている。一方、33%は効果がなかったと回答されており、グループによってリーダーシップ力を発揮する機会に開きがあったことも要因と考えられる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(3)：異文化への理解力

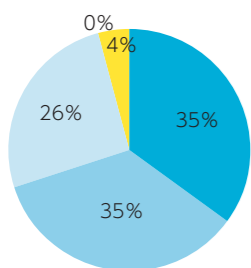
異文化への理解力について、「著しく大きな効果があった」と回答した参加者は25%、「大きな効果があった」29%、「効果があった」38%、「あまり効果がなかった」4%、「効果がなかった」4%という結果であった。以上のことより、異文化への対応力は92%の参加者に効果があった結果となった。多くの参加者が、本プログラムを通じ、異文化理解をすることができたことがわかる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(4)：主体性・積極性・チャレンジ精神

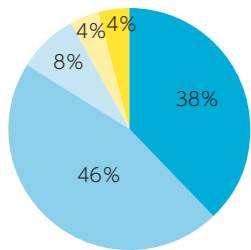
主体性・積極性・チャレンジ精神について「著しく大きな効果があった」と回答する参加者は35%、「大きな効果があった」35%、「効果があった」26%、「あまり効果がなかった」0%、「効果がなかった」4%という結果である。以上のことより、95%の参加者が主体性・積極性・チャレンジ精神に対し、本プログラムを通じ効果があった。グループディスカッション、グループ活動、プレゼンテーション等を通じ、主体性・積極性・チャレンジ精神を身につけることができたといえる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(5)：自分に対する自信

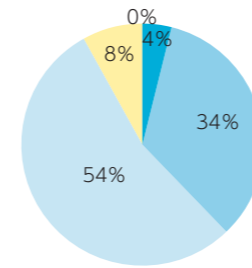
自分に対する自信について、「著しく大きな効果があった」と回答した参加者は4%、「大きな効果があった」38%、「効果があった」46%、「あまり効果がなかった」8%、「効果がなかった」4%という結果である。88%の参加者にとって自分に対する自信へ効果があったと言える。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(6)：グループへの適応力(協調性や柔軟性等)

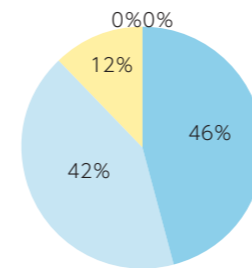
グループへの適応力(協調性・柔軟性等)について、「著しく大きな効果があった」と回答した参加者が4%、「大きな効果があった」34%、「効果があった」54%、「あまり効果がなかった」8%、「効果がなかった」0%という結果である。以上のことより、本プログラムを通じ92%の参加者へ、グループへの適応力(協調性・柔軟性等)への効果があった。グループで様々なプログラムを行ったことは、グループへの適応力に効果があったことがわかる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

(7)：ディスカッション能力の向上

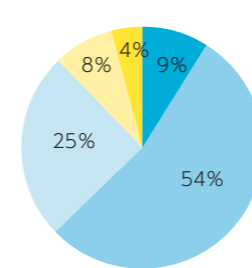
ディスカッション能力の向上について、「著しく大きな効果があった」と回答した参加者が0%、「大きな効果があった」46%、「効果があった」42%、「あまり効果がなかった」12%、「効果がなかった」0%である。以上のことより88%の参加者が、本プログラムを通じてディスカッション能力向上に効果があったと回答をしている。グループディスカッションを実施する機会を設け、繰り返し行ったことによる結果と推測できる。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

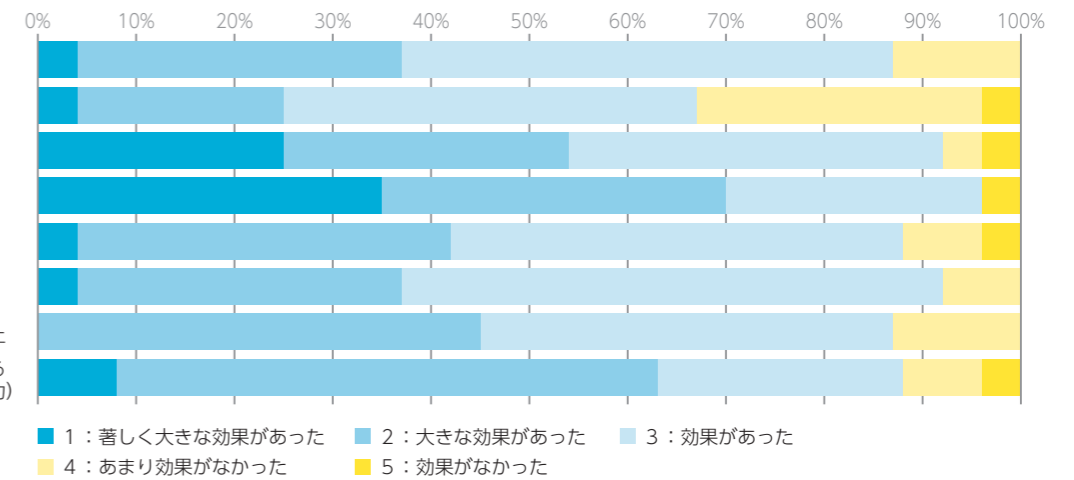
(8)：課題解決力(課題を解決するために考えたり、工夫する力)

課題解決力について、「著しく大きな効果があった」と回答した参加者が9%、「大きな効果があった」54%、「効果があった」25%、「あまり効果がなかった」8%、「効果がなかった」4%である。以上のことより88%の参加者が、本プログラムが企図した課題解決力を身につけることに効果があったと回答している。



■ 1：著しく大きな効果があった ■ 2：大きな効果があった ■ 3：効果があった  
■ 4：あまり効果がなかった ■ 5：効果がなかった

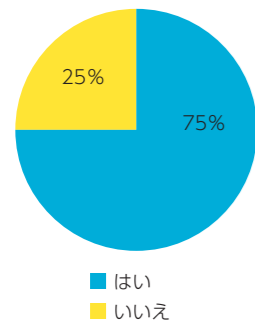
- (1)：コミュニケーション力
- (2)：リーダーシップ
- (3)：異文化への理解力
- (4)：主体性・積極性・チャレンジ精神
- (5)：自分に対する自信
- (6)：グループへの適応力(協調性や柔軟性等)
- (7)：ディスカッション能力の向上
- (8)：課題解決力(課題を解決するために考えたり、工夫する力)



	1:著しく大きな効果があった	2:大きな効果があった	3:効果があつた	4:あまり効果がなかった	5:効果がなかった
(1)：コミュニケーション力	4%	33%	50%	13%	0%
(2)：リーダーシップ	4%	21%	42%	29%	4%
(3)：異文化への理解力	25%	29%	38%	4%	4%
(4)：主体性・積極性・チャレンジ精神	35%	35%	26%	0%	4%
(5)：自分に対する自信	4%	38%	46%	8%	4%
(6)：グループへの適応力(協調性や柔軟性等)	4%	33%	54%	8%	0%
(7)：ディスカッション能力の向上	0%	46%	42%	13%	0%
(8)：課題解決力(課題を解決するために考えたり、工夫する力)	8%	54%	25%	8%	4%

以上が、グローバル人材育成に対する8の質問の回答分析結果である。  
 「主体性・積極性・チャレンジ精神」95%、「異文化への対応力」92%、「グループへの適応力(協調性・柔軟性等)」92%の3つは90%を超えており、本プログラムを通じての効果が高かったことがわかる。  
 「課題解決力」88%、「ディスカッション能力向上」88%、「自分に対する自信」88%、「コミュニケーション力」87%の3つは、事業運営側として獲得してもらいたかったことと合致している。一方、「リーダーシップ力」67%という結果であり、本プログラムは得意としていないことがわかる。

### Ⅲ 【今後の活動】について



(1) 今後も、このような集まりの機会を継続したい、今回学んだことや発表したことを実践したい、新たな団体を作り国際貢献したいなどの意欲はありますか？

75%が今後も活動を継続したい意思を確認できており、参加者に個別のニーズを確認しながら、フォローしていきたい。

#### コメント(自由記述)

- SDGsコースの取り組みに参加したことで、他大学の方々と交流や企業の方々の貴重なお話を聞くことができ自分の成長に繋がったことを感じています。この活動に参加して良かったと心から思います。歳上の方々に頼っていたと感じるところが多々あるため、これからこのような機会があった場合には積極的に発言することができたらいいなと思いました。自分の視野を広げるために、外部の活動や様々な人との交流をこれからも続けようと改めて思いました。
- これまで、何人かで一緒に何かに取り組むのが苦手だった。しかし、グループのリーダーの姿勢を見て、自分ももっと頑張る必要があり、どう頑張っていけば良いかに気づけたので、参加して良かった。
- プラン作りなんて滅多にできない経験でまた専門的でとても良い経験になりました！
- プレゼンや発表をする機会もあったのですが私自身そのチャンスをうまく掴めてなかった所もあったので、今後このような国際ボランティアやワーク、イベント等で発表ができるチャンスがあったらもっと積極的に発表していきたいです。
- 今年はコロナの影響でオンライン授業と重なり中々参加できなかったため、今年はできれば対面で改めて学び治したいと感じました。オンラインであるとはやはり対面よりも理解がしにくいいため対面を強く希望します。

- (1) 小冊子  
 「SDGs達成に向けた次世代おきなわ国際人材育成プロジェクト Okinawa International Youth Development Project for SDGs」

以上